

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成20年9月4日(2008.9.4)

【公表番号】特表2007-526034(P2007-526034A)
 【公表日】平成19年9月13日(2007.9.13)
 【年通号数】公開・登録公報2007-035
 【出願番号】特願2006-553269(P2006-553269)
 【国際特許分類】

A 6 1 N 5/01 (2006.01)

A 6 1 N 5/10 (2006.01)

A 6 1 F 9/007 (2006.01)

【F I】

A 6 1 N 5/01 Z

A 6 1 N 5/10 E

A 6 1 F 9/00 5 9 0

【手続補正書】

【提出日】平成20年7月15日(2008.7.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

眼内標的組織へ放射線の局所指向送達のための装置であって；

放射線源；

眼の中へ眼内挿入のためのサイズを持ち、そして根本端と、放射線源を受入れるための先端を有する実質上剛直なカニユーレであって、体液の放射線との接触を防止するように液密である前記カニユーレ；および

後退した根本位置と、カニユーレの先端の処置位置の間で放射線源を動かすためカニユーレの根本端がそれへ固定されているハウジングであって、放射線源へ作動的に連結された前進機構を含み、該前進機構は放射線源を後退位置と処置位置の間を動かすために可動である、前記ハウジング；

を備えている放射線送達装置。

【請求項 2】

ハウジングは、後退位置において放射線源を遮蔽するための遮蔽ゾーンを含んでいる請求項 1 の放射線送達装置。

【請求項 3】

ハウジングは、放射線源の後退および処置位置の積極的可視指示を提供する請求項 1 の放射線送達装置。

【請求項 4】

前進機構は後退位置にロック可能である請求項 1 の放射線送達装置。

【請求項 5】

ハウジングは、その表面を通る第 1 および第 2 の端を有する細長いスロットを含み、前進機構は放射線源が後退および処置位置の間を動くことができるようにスロットを通して操縦することができる請求項 1 の放射線送達装置。

【請求項 6】

放射線源は電離放射線を発射する請求項 1 の放射線送達装置。

【請求項 7】

放射線源の先端は、4ないし8mmの曲率半径のまわりのカニューレを通る妨害されない機械的輸送を許容するのに十分に可撓性である請求項1の放射線送達装置。

【請求項 8】

標的組織へ放射線の局所送達のための、先端および根本端を有する放射活性源ワイヤであって；

比較的剛直な根本部分；

根本部分へ合体させた比較的可撓性の先端部分；および

放射活性源ワイヤの先端へ固定した放射活性源；

を含んでいる放射活性源ワイヤを備えている請求項1の放射線送達装置。

【請求項 9】

放射活性源ワイヤの先端部分は4ないし8mmの曲率半径のまわりのカニューレを通る妨害されない機械的輸送を許容するのに十分に可撓性である請求項8の放射線送達装置。

【請求項 10】

放射活性源ワイヤの根本および先端部分は、それらの間に接続を有する編んだ鋼ワイヤと、そして根本部分の先端部分への接続を補強するためのスリーブを含んでいる請求項8の放射線送達装置。

【請求項 11】

放射線源は放射活性であり、そして装置はさらに放射活性源へ取付けた放射活性源送達ワイヤを含み、ここで放射活性源ワイヤの根本端および先端はその間の接続を有する編んだ鋼ワイヤと、根本端の先端への接続を補強するためのスリーブを含んでいる請求項1の放射線送達装置。

【請求項 12】

放射活性源はベータ線を発射する請求項8の放射線送達装置。

【請求項 13】

放射活性源はベータ線を発射する請求項1の放射線送達装置。

【請求項 14】

根本端および先端を有する放射活性源ワイヤであって；

4ないし8mmの曲率半径のまわりのカニューレを通る妨害されない機械的輸送を許容するのに十分な可撓性を有する先端にある先端ストランド；

先端ストランドより大きいこわさを有する根本端にあるハンドルストランド；

先端ストランドをハンドルストランドへ固定するための、そして溶接によって先端ストランドとハンドルストランドへ固定されたチューブ状スリーブ；

先端ストランドの先端へ固定された放射活性種を保護するキャニスターを含んでいる放射活性源；

キャニスターを先端ストランドへ固定するためのキャニスターと先端ストランドの接合部にある補強スリーブ；および

ハンドルストランドの根本端の補強チューブ；

を備えている放射活性源ワイヤを備えた請求項1の放射線送達装置。

【請求項 15】

カニューレはハウジングへ接続された少なくとも1本のルーメンを有するチューブ状部材を含み、その先端は液密シールで窓をカバーするカバーを含んでいる請求項1の放射線送達装置。

【請求項 16】

窓のチップは白金-イリジウム材料を含んでいる請求項15の放射線送達装置。

【請求項 17】

カニューレの先端に隣接した開口を有するカニューレに付属した別のルーメンと、ルーメンにスライド自在に収容されたワイヤと、そしてワイヤの先端の膨張可能な構造をさらに含み、膨張可能な構造はワイヤの先端がルーメンの開口から出る時膨張する請求項1の装置。

【請求項 18】

カニューレは、その先端に配置された膨張し得る少なくとも 1 個のバルーンと、そしてバルーンを選択的に膨張および収縮させるための別のルーメンをさらに含んでいる請求項 1 の装置。

【請求項 19】

カニューレは、それを通して流体を選択的に投与または引出すことができる、カニューレの先端に開口を有する別のルーメンをさらに含んでいる請求項 1 の装置。

【請求項 20】

カニューレは、放射線源が収容されている時所望の放射線投与量プロファイルを提供するための放射線窓をその先端に有する請求項 1 の装置。